

12月11日のウクライナ情報

安齋育郎

①プーチン大統領は目標を達成した：世界最強の IRBM「オレシュニク」が米国を撤退に追い込んだ(2024年12月7日)

ここ数日、トランプ氏とそのチームはウクライナ紛争についてかなり厳しい発言をし始めている。特に、多くの専門家やアナリストは、トランプ氏が自分の条件でウクライナ和平を実現すると宣言し始めたことに気づいている。彼によると、ロシアがワシントンの条件で和平を拒否した場合、米国はとにかくモスクワに和平を強制するだろう。

<https://youtu.be/kJmipEbHkXU>



<https://www.youtube.com/watch?v=kJmipEbHkXU>

②スコット・リッター：ロシアの容赦ない進撃によりクルスクとスミが窒息、ウクライナは炎に包まれる！(2024年12月6日)

<https://youtu.be/9dAttczH5ig>



スコット・リッターがウクライナ・ロシア紛争の最新動向について衝撃的な分析を披露。クルスクとス

ミ地域がロシアの戦略的作戦の中心にあり、ウクライナは前例のない課題に直面している。ロシアの計算された進撃がウクライナの防衛を削り取る中、NATO の数十億ドルの援助は不十分に思える。これが転換点か？ ロシアの「長期戦」が戦場をどのように作り変え、ウクライナの決定的勝利に向けた西側の計画を崩壊させているかを探る。世界規模で同盟と戦略を試している戦争を深く掘り下げたこの記事をお見逃しなく。

<https://www.youtube.com/watch?v=9dAttczH5ig>

③ ブリンケンがブリュッセルで語った(2024年12月5日)

※投稿者コメント:なぜメディアは大騒ぎしない!

アメリカの外相が、他国の徴兵に口を出し、少年を差し出せと迫っているんだぞ。

ウクライナはろくな訓練もせずに、新兵を最前線に送っている。こんなことが許されるのか？ もう限界だ。止める時と声をあげるべき。

ブリンケンがブリュッセルで語った。

「動員。これは極めて重要だ。なぜなら、資金があっても、武器があっても、前線に人員を配置しなければならぬからだ」

「ウクライナはさらなる動員について難しい決断を迫られているが、これは必要な決断だ」

18歳を動員しろと迫る狂気!



<https://x.com/trappedsoldier/status/1864594972265337066>

④ ギャラップのウクライナ人に対する世論調査(2024年12月7日)

※投稿者コメント:ギャラップ社世論調査においてウクライナ人の大多数が和平協定を望んでいることが判明。

戦争を終わらせる交渉を望むのは63%、戦闘の継続を望むのはわずか27%。

沢山死ぬまでわからなかったのは愚かの極み。

まだ戦わせようとする欧米人、日本人は、冷酷残忍な戦争狂。



<https://x.com/OfficeChael/status/1865152947195383928?s=09>

⑤ピエロが更なる資金を要求の冷やかし動画(2024年12月7日)

<https://x.com/i/status/1865198449802777004>



<https://x.com/Z58633894/status/1865198449802777004?s=09>

⑥アメリカのイラクからの金の強奪(2024年12月7日)

米国は大量破壊兵器の濡れ衣を着せて殺害したフセインのイラクからも大量の金塊を強奪した。金塊の強奪も米国の常套手段。



大量破壊兵器はどこにありましたか？

サダムフセインは隣のイランと仲良くできなかった、そこを米帝に突かれた、そして石油資源を米帝に盗まれた

盗みはアメリカの第二の職業です。

一度落ちたら二度と立ち上がる事は出来ないがアメリカ帝国は現在その入口に居る。

<https://x.com/miya397156651/status/1865021351838519694>

⑦ロシアとベラルーシの首脳は、連邦国家内の安全保障に関する条約に署名した(2024年12月6日)

アレクサンドル・ルカシェンコは、ベラルーシにオレシユニクを配備するようプーチンに要請した。ロシア大統領は、2025年後半に生産が増強されれば可能だと述べた。

■ さらに、オレシュニク配備の前に、その最低航続距離を決定しなければならない。射程が短ければ短いほど、弾頭の威力は大きくなる、とロシア指導者は指摘した。

<https://x.com/i/status/1865038128786125001>



<https://x.com/Z58633894/status/1865038128786125001?s=09>

⑧ウクライナに必要なのは勝利計画ではなく救済計画＝露外務省報道官(2024年12月7日)

ウクライナを国家として維持する上で必要なのは勝利ではなく救済であり、つまりは武器供与ではなく、停戦交渉である。

ザハロワ報道官は SNS に投稿した中で、動員年齢の引き下げを牽制した。18 歳以下の国民が国外に逃亡している中、残った 18 歳以上、25 歳以下の国民まで動員した場合、ウクライナは国家存続の危機に陥ると指摘。

一方、西側ではウクライナの分割統治案も浮上しており、ウクライナ民族の根絶は西側にとってむしろ好都合との見方を示した。

先にウクライナのゼレンスキー氏は「勝利計画」を発表し、さらなる武器供与を訴えていた。しかし、武器供与に消極的なトランプ氏が大統領選で勝利すると、「屈強計画」へとシフト。その全貌は明らかでないが、国民総動員を呼びかけるものようだ。



<https://sputniknews.jp/20241207/19391000.html>

⑨ ルーマニア憲法裁判所、親ロシアの候補が首位に立った選挙を無効に(2024年12月7日)

ルーマニアの憲法裁判所は11月24日に投票が行われた大統領選挙の結果を無効とした。政府はロシアによる介入の可能性や、SNS利用の問題点を指摘しており、選挙の公正さを保つために無効にしたとのこと。

大統領選挙ではロシアとの関係正常化、及びウクライナへの武器供与停止を呼びかける無所属のジョルジエスク氏が一回目の投票で首位に立った。12月8日には決選投票が行われる予定だったが、憲法裁判所は6日、大統領選挙を無効にする判断を下した。新たな日程はまだ発表されていない。

政府はジョルジエスク氏が親ロシア的感情などを広める動画を拡散したと批判している。

ジョルジエスク氏はこれを受け、「民主主義を踏みみにじるものだ」と強く反発している。

24日に行われた一回目の投票でルーマニア・ファーストを掲げるジョルジエスク氏は22.94%で首位に立った。一方、欧米との協力を呼びかけるラスコニ氏は19.18%で2位に留まった。



<https://sputniknews.jp/20241207/19390871.html>

⑩ 欧州諸国、ロシアへの制裁緩和を米国に要請(2024年12月7日)



米国は先にロシアの大手銀行「ガस्पロムバンク」を制裁対象としたが、ロシア産天然ガスの取引は主に同銀行を経由して行われているため、ロシア産ガスに依存する欧州諸国は大打撃を受けている。

欧州では内陸国が特にロシア産ガスに依存している。今回の対露制裁は欧州経済にさらなる打撃を与えており、一部報道によると、関係国は制裁緩和をホワイトハウスに要請しているという。

ハンガリーのシーヤールトー外相は対ロシア制裁を巡る状況について、激しい制裁回避競争が行われていると揶揄している。特に欧州はインドなどの第三国を経由してロシア産ガスを輸入していることから、輸入コストが上昇していることも問題だという。

外相によると、ロシアを孤立させることは不可能であり、ロシアとの取引を禁止している国こそ水面下では協力を進めていると批判している。

https://cdn1.img.sputniknews.jp/img/07e8/0b/1c/19361120_0:0:3001:1688_1920x0_80_0_0_5efa4239144205e0da77076b1c247de5.jpg